研究課題　聖衆来迎寺史料の調査･研究

研究経費　五〇万円

研究組織

　研究代表者　　　高橋大樹（大津市歴史博物館）

　所内共同研究者　林晃弘・末柄豊・村井祐樹

　所外共同研究者　和田光生（大津市歴史博物館）・井上優（滋賀県教育委員会事務局文化財保護課・琵琶湖文化館）

研究の概要

（１）課題の概要

　滋賀県大津市比叡辻に所在する聖衆来迎寺は、最澄の建てた地蔵教院を起源とし、源信が念仏道場として再興したという所伝を有する天台宗の古刹である。もとは比叡山横川に伝来した国宝『六道絵』15幅を所蔵するほか、天正年間に京都に所在した元応寺を併合したこともあずかり、多数の文化財を伝えている。  
　東京大学史料編纂所は、早くに明治21・大正12・昭和2年の3度にわたる史料採訪を行い、文書・聖教取り混ぜて少なからぬ影写本・謄写本を作成している。その後、『六道絵』については、近年本格的な調査研究がなされたのに対し、文献史料については、1984年に琵琶湖文化館が「特別展 聖衆来迎寺」を開催したのを契機に、江戸時代成立の寺史『来迎寺要書』を紹介した程度で、本格的な調査研究はなされていない。『新修大津市史』編纂のための調査でも、対象史料は一部に限られ、写真撮影もほとんどなされなかった。  
　今般研究代表者の勤務先である大津市歴史博物館では、仏像・絵画を中心に同寺の寺宝展を開催することとなり、付随して所蔵史料についても悉皆調査の御許可を得た。この機会を生かし、文書・聖教の総合調査を行いたい。予備的な調査によって影写・謄写の対象になった中世史料の一部の存在を確認したほか、未調査の近世史料が多数存在していることが判明しており、近世史料も視野に収めた調査研究をすすめたい。

（２）研究の成果

　聖衆来迎寺所蔵史料は、大津市歴史博物館、滋賀県立琵琶湖文化館、京都国立博物館に寄託されている。大津市歴史博物館にて開催した企画展「聖衆来迎寺と盛安寺」では、主要な仏像・絵画・聖教・古文書を、調査により得られた知見を加えて紹介した。  
　近世・近代文書の大部分は未整理分であり、大津市歴史博物館において目録作成を進めた。内容は多様であるが、特に元禄期以降の開帳関係の史料が多数確認された。また、近江国高島郡阿弥陀寺（大和西大寺末、真言律宗）に関する史料も含まれていることが明らかとなった。  
　企画展会期中に大津市歴史博物館・琵琶湖文化館において、共同での史料調査を実施した。史料編纂所が影写本・謄写本で把握していたものの原本に加え、新たに中世に遡る史料も見いだされた。中世文書・聖教と、近世文書の一部についてはデジタル撮影を行い、計1,482コマに及んだ。  
　新出史料については大津市歴史博物館にて基礎的な整理を行ったことで、調査・撮影を効率的に進めることができた。中世文書や聖教については、原文書を実見しながら意見交換をすることができ、史料に対する理解を深めることができた。